



～国際交流の巻～

## 歴史遺産を生かした国際交流

ながわまち  
長野県長和町教育委員会

### 小さな長和町

長和町は雄大な霧ヶ峰や美ヶ原高原の広がる、長野県のほぼ中央に位置しています。周囲を山に囲まれた、東西16.39km、南北21.50kmの狭小な地勢にあり、人口6,700人ほどの小さな町ですが、豊かな自然環境に恵まれ、当地域ならではの特色を持つ歴史遺産が数多く残されています。

町の南端に当たる和田峠の周囲は、本州最大規模の黒耀石原産地帯として著名です。火山活動によって産み出された天然ガラスの黒耀石は、旧石器時代から縄文時代におよぶ3万年の間、人々の生活を支える石器の原料として、限定された産地から全国に流通していた貴重な資源です。長和町では、その流通拠点となった大規模な遺跡群の保存と活用が進められており、国の史跡に指定された縄文時代の黒耀石鉱山は、町立の博物館と大学機関の研究所によって調査・研究が行われています。

隣接する諏訪地域から和田峠を越えて、町の中央を走る中山道なかせんどうも歴史の道として国の史跡に指定されています。標高1,600mに近い和田峠は中山道最大の難所といわれ、この険しい峠を控えて利用者の多かった和田宿と長久保宿には、本陣ほんじんや旅籠はたごなど当時の面影を残す伝統建造物が残されており、それらの保存整備が進められています。

### 博物館・研究機関を窓口とした国際交流

現在の長和町は、2005年に旧長門町と旧和田村が合併して誕生しました。まちづくりの柱としては、希少な歴史遺産を地域共通の財産として生か

し、また、その歴史遺産を未来に継承する担い手づくりとして、子どもたちにふるさとの魅力を伝える歴史学習に力を入れてきました。歴史遺産を生かした国際交流事業は、地域の担い手を育成する事業の一環として町が取り組むものです。

子どもたちの教育の指針となる「教育基本法」では、「伝統と文化の尊重、それらを育んできたわが国と郷土を愛し、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与」するとした国際交流の理念が述べられています。長和町の歴史学習では、山間部の小さな町にもすばらしい歴史遺産があり、その魅力を世界に発信しようと投げかける一方で、それぞれの地域に特色のある歴史遺産があり、広くその魅力に触れることによって、互いの歴史や文化・伝統を尊重する視野を育みたいと考えてきました。国際交流事業は子どもたちの視野を拡大し、また、単に異文化に触れるだけではなく、地域の歴史や文化について表現し、伝えるという経験を得ることによって地域の魅力を再発見する良い機会ともなるはずです。

子どもたちのホームステイをはじめとする国際交流を実現する方法として、長和町の博物館である黒耀石体験ミュージアムが窓口となり、英国東部のノリッジにあるセインズベリー日本藝術研究所と「考古学と歴史教育における共同研究と国際姉妹都市提携への協力」をうたった学術協定を締結したのは、このような考えに基づくものです。

英国は、歴史遺産の保護や次世代教育活動における先進地として知られています。セインズベリー日本藝術研究所はヨーロッパにおける日本文化の研究拠点として著名であり、縄文文化をはじめとする考古学研究にも造詣が深く、国内からも

多くの研究者が訪ねています。長和町は、その研究所や関連する研究者を通じて、国際姉妹都市提携の候補地を検討することにしました。

## 類似する歴史遺産を通じて

ノリッジを含むノーフォーク州は、黒耀石と同様に歴史的な資源であるフリント石材を活用する歴史を持ち、長和町の黒耀石鉱山と近似するフリントの採掘址グライムスグレーブスがあります。石材の違いはありますが、採掘がはじまった時期や遺跡の景観は当町の遺跡と驚くほど似ており、世界的にも著名な遺跡です。研究所が国際姉妹都市提携の候補地として紹介したセットフォードはその遺跡の所在地であり、ローマ時代の道や古い町並みを歴史遺産として残す静かな町並みや、豊かな自然と農業や林業を中心とする産業、2万人ほどという人口規模も候補の理由となるものでした。



2012年セットフォードでの協議

長和町は、2012年にセインズベリー日本藝術研究所において学術協定の調印を行い、研究所スタッフの案内でセットフォードの歴史遺産を視察し、教育や議会、行政の代表者の方々と国際姉妹都市提携についての協議を持つことになりました。セットフォードとの交渉は、すでに研究所の方々によって打診済みでしたが、町を紹介するプレゼンテーションを行い、直接意見交換を行った結果、相互の情報交流をさらに重ね、歴史遺産の共同研究や子どもたちの教育交流に加え、産業をはじめとする地域ぐるみの交流にしたいという前向きなお話もいただくことができたのです。

## 国際姉妹都市提携に向けて

情報交流の仕組みと地域ぐるみの交流プランを検討し、今後の交流事業を支える組織体制を構築するためには、地元の皆さんにこの事業の意義を広く知っていただくことが重要となります。長和町はクリアに協力を求め、セットフォードとの国

際姉妹都市提携に向けて事業を推進することとしました。

2013年は、クリア事業の一環としてセインズベ



2013年黒耀石のふるさと祭り：縄文外交

リー日本藝術研究所のサイモン・ケイナー氏を講師に招き、第9回目となる黒耀石のふるさと祭りにおいて

セットフォードの歴史遺産を紹介する講演をお願いしました。また、ホームステイの候補校となっているグラマースクールの教頭先生やセットフォードの博物館館長を招き、中学校の視察・訪問に加え、長和町の歴史遺産や伝統行事に触れていただきました。英国から関係者を招き、地元の皆さんや子どもたちと交流する機会をつくったことは大きな反響を呼び、事業推進に対する期待を高める契機となったようです。



中学校和室で英国の講義聴講



豊受大神宮遷宮祭への参加

この長和町での交流事業の様子は、セットフォードの関係者にも伝えられ、さらに、積極的な事業の推進を望む声が寄せられることになりました。このことを受け、2014年には、長和町の教育長と経済界の代表者がセットフォードを訪問し、グラマースクールの視察と併せて、ギルドの代表者や産業界の方々と交流します。そして、町の国際交流実行委員会の設立準備もはじまり、2015年には、新設される長和町の庁舎に両地域の交流の象徴として黒耀石とフリントのオブジェを配置し、セットフォードの代表者を招いて国際姉妹都市提携の調印を実現したいと考えています。